

平成22年5月12日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19611017
 研究課題名（和文） 国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究
 ー館史資料の分析を中心にー
 研究課題名（英文） Study on the Role and Function of the National Museum of History
 研究代表者 丸山 士郎
 (MARUYAMA SHIRO)
 独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館博物館・情報管理室・室長
 研究者番号：20249915

研究成果の概要（和文）：

東京国立博物館は日本で最も古い博物館であり、1950年に文化財保護法が施行されるまでは、文化財行政の中心的な役割を果たしてきた。東京国立博物館が保管する歴史的な文書は、日本の博物館の歴史を知る上で欠くことのできない資料であるとともに、戦前までの文化財行政を知る上でも重要な資料である。この研究では、それらの資料を分析し、東京国立博物館が果たしてきた歴史的役割について解明した。

研究成果の概要（英文）：

Tokyo National Museum is the oldest museum in Japan, until the Cultural Properties Protection Law went into effect in 1950. And it has played a central role in cultural administration. Historical documents in the Tokyo National Museum is an essential document for understanding the history of museums in Japan, and is an important material to understanding the cultural administration before the war. This study analyzed those materials, and understood the historic role played by the Tokyo National Museum.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：日本彫刻史

科研費の分科・細目：博物館学

キーワード：美術史、日本近代史、帝室博物館、博物館史

1. 研究開始当初の背景

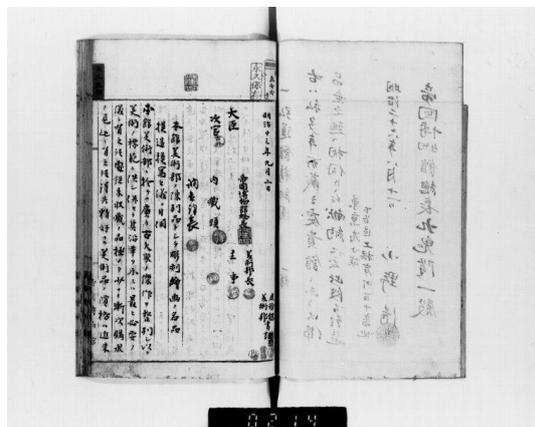
国立博物館は、明治政府の殖産興業や学校教育の政策と密接に関わり合いながら発達してきた。なかでも、国内外の博覧会への参加を前提とした文化財の全国的調査と作品収集は、その後の博物館の活動に大きな影響を与えた。また、東京国立博物館は、1950年に文化財保護法が施行されるまでは、文化財行政の中心的な役割を果たしてきた。東京国立博物館には「館史資料」の名称で、黎明期から現在に至るまでの博物館に関わる文書を中心とした資料が存在する。それらの一部は「東京国立博物館百年史」としてまとめられているが、全体像を知ることはできず、また、精度にも問題があり、その整備や研究が望まれる。

2. 研究の目的

館史資料は、一部がマイクロフィルム化されているが、目次や細目といったものすら未整備であるため、必要とするデータを探すために多大な労力を必要とする。本研究では、館史資料のうち収蔵品の基礎データである「列品録」を中心に調査を実施し、内容の把握・分析して、東京国立博物館が果たしてきた機能や役割を研究するとともに、検索の便となる整理を行う。

3. 研究の方法

列品録のデジタル画像データと文字データを整備する。列品録のデータの整備を進めるとともに、該当する実作品の調査も実施し、作品に関する美術史的調書および画像データの整備を進める。また、現在の作品評価と比較を通して、列品録記載時の美術史的な評価などについても検証を加える。



列品録

4. 研究成果

館史資料のうち作品に関する基礎資料である「列品録」を中心に、「列品記載簿」、「重要雑録」などの調査を実施した。原資料の画像データの作成や、文字データの翻刻などの作業を行い、今後の活用の便を図った。それらの情報の分析を通じて、国立博物館の役割と機能について研究した。

黎明期の博物館は、殖産興業と日本文化の見直しという社会背景に沿った活動をする。その点で、第一に取り上げなければならないのは、国内外で行われた勸業博覧会である。博覧会と博物館には同様の役割があるという考えに基づいて、博覧会出品作品の多くが博物館に収められる。ただし、今回の調査では、収蔵に関する詳しい経緯を示す新資料を発見することはできなかった。国外の博覧会は、諸国との交流の場ともなった。開催国の美術品を収集する、あるいは参加国の関係者との契約により後日、美術品の寄贈を受けるなど重要な役割を果たした。

初期の東京国立博物館は、日本文化の啓蒙する役割を自認し、そのための収集・展示活動を行う。すぐれた文化財の収集・展示が欠かせないが、当時からそのような作品の収集は困難であるため、模写や模造の制作を行う。現在、博物館で一般的に行われる模造による展示の先鞭である。模写・模造の事業のうち、前者の事業は長期にわたって継続するが、彫刻は短期間で途絶えてしまう。それは、作品の所在地で長期にわたって作業をする必要があるため、型を採る現在の方法でも共通する問題点である。本研究期間中に、別の事業の中ではあるが、彫刻を含む多くの立体作品の3D計測を実施した。今後は、そのようなデジタルデータの活用が必要になるだろう。

東京国立博物館には、明治維新に活躍した大久保利通、三條実美などの絵画・彫刻による肖像が収蔵される。それらは、日本固有の美術を理解し、発展させるためには衆人の知る人物を表現することがよいという理由による。モデルとなった人物の事跡理解とともに、身近な人物を表現した作品では、芸術表現も理解しやすいという理屈が説かれる。国粹化の流れに沿ったものであるが、ワークショップのような考えがなかった中で、身近でない高尚なものをいかに理解させるかという工夫が伺える。

さて、列品録を中心に博物館に残る資料のデータ整備を実施したが、そのうちの日本彫刻関係資料については、現在の整理番号との照合も行った。また、該当作品の美術史的調査および画像データも完備した。それに基づいて『東京国立博物館図版目録 近代彫刻篇』を刊行し今後の研究の便を図った。また、作品の収蔵経緯、その後の活用などについても分析を行った。他施設の建築調査も実施し、東京国立博物館が与えた影響などについても分析を加えた。



老猿 高村光雲作
シカゴ万博（1893年）出品作品



ベールの女
ジョヴァンニ・パティスタ・ロムバルディ作
ウィーン万博(1875年)にて収集

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 丸山士郎、東京国立博物館の近代彫刻、東京国立博物館図版目録（近代彫刻篇）、査読無、2010、PP. 18-22
- ② 鬼頭智美、欧米における国際展覧会実施運営の諸問題、MUSEUM、査読有、624号、2009、PP. 45-60
- ③ 木下史青、東京帝室博物館・復興本館の

昼光照明計画、東京国立博物館紀要、査読無、43号、2008、PP.67-114、

博物館学芸部長

研究者番号：80213099

[図書] (計1件)

- ① 東京国立博物館篇、中央公論美術出版、東京国立博物館図版目録(近代彫刻篇)、2010、168、

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丸山 士郎 (MARUYAMA SHIRO)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸企画部博物館情報課 情報管理室長

研究者番号：20249915

(2) 研究分担者

島谷 弘幸 (SHIMATANI HIROYUKI)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸研究部長

研究者番号：90170935

高橋 裕次 (TAKAHASHI YUJI)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸企画部博物館情報課長

研究者番号：00356271

白井 克也 (SHIRAI KATSUYA)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸研究部列品管理課平常展調整室長

研究者番号：70300689

鬼頭智美 (KITO SATOMI)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸企画部企画課国際交流室長

研究者番号：80321553

木下史青 (KINOSHITA SHISEI)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長

研究者番号：20321549

伊藤嘉章 (ITO YOSHIAKI)

独立行政法人国立文化財機構九州国立博